

山下 隆資先生を送る

経済学部長
阿部 文雄

山下隆資先生は、平成 17 (2005) 年 3 月 31 日をもって、本経済学部を定年により退職されました。先生は、本学部にご着任以来、35 年の長きにわたって社会政策および労働経済学の研究教育を続けてこられました。香川大学は、先生の在職中の多大なご功績に対して本年 4 月に香川大学名誉教授の称号をお贈りしました。

先生は昭和 16 (1941) 年 4 月に徳島県三好郡池田町にお生まれになり、徳島県立池田高等学校を経て、昭和 35 年 4 月に香川大学経済学部に入學されました。そして、昭和 39 年 3 月に同学部を卒業後、民間企業勤務を経て、香川大学経済学部専攻科で研鑽を積まれ、昭和 43 年 4 月に一橋大学大学院経済学研究科修士課程に進學されました。昭和 45 年 3 月に同修士課程を修了後、同年 4 月に香川大学経済学部助手に就任されました。その後、昭和 46 年 6 月講師、昭和 48 年 8 月助教授、昭和 59 年 8 月教授にそれぞれ昇任されました。

先生のご専門は社会政策および労働経済学です。先生は、着任当初は「経済原論」の講座で「経済原論第二」という講義を担当されました。その後「社会政策」の講座に移られ、「社会政策論」および「労働経済論」を担当されるようになりました。「社会政策」の講座に移られて以降、本格的に、雇用政策や社会保障・社会福祉政策の研究に専念することになりました。先生は、雇用・失業問題を中心に、とりわけ高齢者の雇用促進という視点からの著作を多数発表されました。また、保育所行政やシルバー人材センター、住宅政策に関する研究など幅広く問題意識を持ち、多くの論文を書かれています。こういった先生の研究は、いわゆる大学の中だけの研究ではなく、国や香川県、高松市等の行政と協力した、文字通り、地域連携という形をとっているのが特徴であり、

高く評価されるどころです。いわば生きた学問実践でした。先生は、「社会政策」の講座に移ったことについて、「大変幸運であった」とおっしゃったことがあります。先生にとって、「来るべき高齢化社会にどう対応するか」という問題意識が、当時、中心的な関心事になりつつあったからでした。

教育面でも、先生のゼミは常に人気ゼミでした。300人を超える優秀なゼミ生を世に送り出してきました。また、学部教育だけでなく、大学院においても中国からの留学生を含め多くの学生の指導に心血を注いでこられました。教育といえば、周恩来元首相が卒業した中国の南開大学からの招聘で日本の高度経済成長と日本の労使関係に関する講義も行っておられます。

また、管理運営面では、先生は、経済学部長をはじめ、評議員、経済学科長、経済研究所長、就職委員長、インターンシップ実施委員長、研究教育委員長、入試委員長など経済学部のほとんどすべての重要な仕事を精力的に務めてこられました。とくに、先生が学部長として文字通り東奔西走されたおかげで、大学院経済学研究科に、長い間の悲願であった「企業経営専攻」ができたことは記憶に新しいところです。

最後に、しかしもっとも特筆すべきは、先生の社会的活動についてであります。先生は、香川地方労働審議会の会長をはじめ、香川地方社会保険医療協議会会長、香川県の職業能力開発審議会会長、高松市の社会福祉審議会委員長、国民健康保険運営協議会会長など、国や香川県、高松市の多数の審議会、協議会の要職を務められ、多くの政策提言や報告書の取りまとめに尽力してこられました。平成16年11月には、香川県でははじめてという、厚生労働大臣による「職業能力開発行政関係功労者」という名誉ある称号を授与されました。

定年による退職とはいえ、多方面で大きな業績を残された先生を失うことは経済学部にとって大きな痛手であります。学部の一大事には必ず先生の大きな声での発言が教授会で聞かれました。本当にさびしい限りです。先生は、退職後も、岡山商科大学で引き続き教鞭をとっておられます。どうか身体に十分留意されて、私ども後輩のために、引き続き、ご指導・ご鞭撻下さいますようお願い申し上げます。